



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第二十八号）

立秋

八月七日

## 有爾中の天王踊

胸に吊り下げた鞆鼓を打ち鳴らして踊る「かんこ踊り」。鞆鼓を「かんこ」と呼ぶことから、この名があります。古くから伝わる伝統芸能で、現在も三重県下に六十カ所近く残っているといわれます。

これまで伊勢の佐八や円座、御菌の小林などで「かんこ踊り」を拝見してきましたが、いずれも八月のお盆の夜に寺院や集会所で踊る念仏踊りでした。しかし、昼間に神社で踊る「かんこ踊り」もあります。宇爾櫻神社例祭の天王祭に奉納される「かんこ踊り」で、江戸の宝暦年間（一七五一〜六四）から疫病追放、五穀豊穰、村内安全を祈願して始められたといわれています。天王祭で踊られるので、「天王踊」の名があります。

珍しい名前の宇爾櫻神社は、明和町有爾中に。祭日の七月十五日、午後一時過ぎ、集落から少し離れた丘にある神社へ向かうと、すでに神社の森から太鼓の低い音と人々のざわめきが響いてきました。のどかな田園風景のなかに響く祭りの音に、どこか懐かしさを覚えました。

神社の階段を上ると、社殿前の広場で、かんこ踊りが行われていました。頭には白いシャグマ（白馬の毛）をかぶり、細い縞の浴衣に腰みのをつけた姿、腰に着けた鞆鼓を叩きながら、ゆるやかに踊っています。花笠をかぶった子どもたちもいます。その踊りの輪を取り囲むように、人々が大きな団扇で風を送っています。

この天王踊は、時代によっては中止になったりしましたが、昭和五十七年に神社の造営を機に復活して、現在に至っています。昨年は踊り手不足で中止になったものの、今年は無事に行われました。踊り手たちに風を送る団扇にいつそう力が入る「天王踊」です。

文 千種清美



# おかげの里便り

おかげ横丁

## ○ 夏祭り～伊勢の風 江戸の風～

五穀豊穡、家内安全を祈願する鞆鼓踊（かんこおどり）、古市の遊郭にて人気を博し、全国から来た参宮者によって日本各地に広まっていった河崎音頭と、東京の盆太鼓スタイルであった斜め台による打法を、初めて創作和太鼓に取り入れ「助六流」という独自の演奏形態を築きあげた、大江戸助六太鼓による東京音頭の競演。

と き／8月11日（土） 18:00～

出 演／円座町鞆鼓踊保存会（伊勢）

鹿海町河崎音頭保存会（伊勢）

朝熊町河崎音頭保存会（伊勢）

<特別出演>大江戸助六太鼓（東京）

ところ／おかげ横丁太鼓櫓

## ● 企画展「お祭り備忘録～はぐくまれてきた伊勢の文化～」

伊勢市には無形民俗文化財が国・県・市指定のものなどを合わせ27件あります。伊勢神宮の祭りに由来するものや、地元で伝わるもの、さまざまな祭りが合わさったものなど、バリエーション豊かで個性的なものばかりです。式年遷宮の行事として行われるお木曳き・お白石持ち行事は、伊勢神宮のお膝元ならではの民俗芸能です。また、地元で伝わる御頭神事やかんこ踊りは、その独特な出で立ち、特徴的な舞は、この地域でしか見ることができないものです。この企画展では、伊勢市内の指定無形民俗文化財の全てを紹介し、民俗芸能を通して、人々が育んできた歴史・文化の一端をご覧いただき、伊勢の民俗芸能の魅力を再発見します。

と き／8月10日（金）～19日（日）

10:00～18:00（11日（祝）は20:00 まで）

ところ／おかげ横丁大黒ホール（名産味の館2 階）

五十鈴塾

## ○ 楽しい俳句

わずか17文字にいろんなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた和歌に始まり連歌、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らずに5・7・5になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地は持っているのです。いまや世界の人々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてください。

と き／8月22日（水） 10:00～12:30

講 師／石井 いさお（俳人協会三重県支部長）

参加料／一般2,000円 会員1,500円

場 所／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

## ○ 節気菓子

しゅうかいどう  
秋海棠

白餡を道明寺生地地で包み、氷餅をまぶすことで、愛らしい秋海棠の花を表現しました。

けいりゅう  
溪流

虎豆納豆入りの白餡を、薄く流した葛寒天で巻きました。青楓が彩りを添えて、涼しさを一段と際立たせます。

や  
くず焼き

こし餡入りの生地を蒸し、上用粉を付けて焼きました。ひと味違う葛の風味を、どうぞお楽しみください。